

患者さんパンフレット

四国がんセンター
消化器内科



私たち医療スタッフは

- I 入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、
最良の状態での治療が受けられるようお手伝いいたします

- II 抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、
安全に治療を続けることができるようお手伝いいたします



化学療法 mFOLFOX6療法を受けられる方へ

さま



主治医

受け持ち看護師

治療前の歯科受診について



四国がんセンターでは、
治療時に起こる口のトラブルを予防し、
治療が円滑に進むよう、
治療開始前の歯科診察を行っています



口腔内（口の中）はとても細菌の多い場所です。
治療中や治療後などその細菌が悪影響を及ぼすことが
あります

特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには、治療前からの
口腔ケア（口の中をきれいにし細菌をできるだけ減らし
ておく）を行うことが有効です

治療前の歯科受診では、以下を行います。

- レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
- 歯ブラシではとれない細菌の除去
- 適切な歯ブラシ方法の指導

通常1～2回の受診で終わることができます

続けてのケアが必要な方で、かかりつけ歯科をお持ちの方は、
かかりつけで歯科にご紹介させていただきます
ご相談ください

mFOLFOX6療法のスケジュール

1コース（14日間）

治療日数	1	2	3	4	5	6	7	8~14	15日目以降
エルプラット（点滴） 2時間	●								●
5FU（点滴） 5~10分	●								●
5FU（持続注入） 46時間	● →								● →

*この他に、アレルギーを抑える薬や吐気止めの点滴、内服薬などがあります

安全に点滴を行うために

- 正しく安全に点滴液を投与するために輸液ポンプを使用します
- 点滴が入っている部位を曲げたり、ねじったり、また、点滴チューブをひっぱったりしないようにしてください
- 歩行時は、点滴台を支えにして歩くと転倒する可能性がありますので、点滴台は支えにしないようにしましょう

- * 輸液ポンプを使用しているときに機器のアラーム音が鳴ったとき
- * 点滴が入っている部位に違和感や痛みを感じたり、腫れてきたとき
- * 点滴を開始してから、気分が悪くなったり、呼吸がしづらくなるような症状が出たとき



こんなときは看護師にお知らせください

入院中の生活の注意点

- 感染予防のためにマスクを着用しうがい、手洗いを行いましょう
- 口の中は清潔にするよう心がけましょう
- 点滴をしている間は、排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- 膀胱に尿が溜まると薬が腎臓や膀胱を刺激し、炎症を起こしますので尿意を感じたら我慢をせずにトイレに行きましょう
- 排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください



抗がん剤治療後の注意点

抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは尿や便などから抗がん剤が排出されます。それらに直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが、できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう。

- ◆ 男性の方は飛び散り防止のため、**座って排尿しましょう**



- ◆ 尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取りトイレに流しましょう。2度拭き取ると良いでしょう。

- ◆ トイレの後、フタがある場合は、**フタをして水を2回流しましょう**



フタをして水を2回流しましょう

- ◆ トイレのあとは石けん等でよく手を洗いましょう
- ◆ 尿や吐いてしまったもので汚れた洗濯物は、ほかの洗濯物と分けて洗濯すると良いでしょう

ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、日々の目標として患者さんご自身の目標をかかげ、よりよい状態で退院を迎えられるよう医療スタッフの目標もあげています

入院期間は7日前後の予定です

抗がん剤治療の副作用は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすすまないこともあります。その都度対応していきますので、ご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活が不安なく送られるようにサポートさせていただきます





今日の目標

- 入院生活や治療について医療スタッフの説明が理解できる
- わからないことは質問することができる

<時間>	<予定>
11:00	入院 【入院後に以下のことを予定しています】 <ul style="list-style-type: none"> • 看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明（テレビの病院案内も参考にしてください） • 検温、血圧測定、身体測定
12:00	昼食 <ul style="list-style-type: none"> • 連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り • 禁煙の確認 • 歯科受診 • 医師、薬剤師より抗がん剤治療の説明があります • 説明を聞いた後、納得し同意できれば同意書にサインをし、看護師にお渡しください（初回治療時のみ） 印鑑は必要ありません • わからないことやもう少し詳しく説明を聞きたいことなどがありましたら、遠慮なくお尋ねください
18:00	夕食 <p><お薬></p> <ul style="list-style-type: none"> • 他の病院で処方されたお薬については、一度お預かりし医師の指示を確認後、続けるか、中止するかをお伝えします <p><食事></p> <ul style="list-style-type: none"> • 特に制限はありません
21:30	消灯 <ul style="list-style-type: none"> • 治療食以外の方は選択食となっています • 食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- 入院生活や抗がん剤治療に対する不安がないよう支援します





今日の目標

- 抗がん剤治療について医療スタッフの説明が理解できる
- 不安な気持ちを医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

6:00

起床、検温

7:30

朝食
血液検査

シャワー浴を
しましょう



10:00

検温

12:00

昼食

<治療の準備>

- 看護師より、治療スケジュール、日常生活の注意点について説明をします

18:00

夕食

21:30

消灯

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- 抗がん剤治療に対する不安がないよう支援します



抗がん剤投与 当日 月 日



今日の目標

- 安全に抗がん剤治療を受けることができる
- 副作用症状出現時は、医療スタッフに知らせることができる
- 転倒しない

<時間>

<予定>

6:00	起床
7:30	朝食 洗面、歯磨き 検温
10:00	検温 点滴開始前にシャワー浴をしましょう
12:00	昼食 歯磨き
13:30	医師または研修を受けた看護師が、医師の指示のもと点滴を開始します ①吐き気止め 【15分】 ②抗がん剤（エルプラット）【2時間】 ※抗がん剤の横からレボホリナートを点滴します【2時間】 ③抗がん剤（5FU）【10分】 ④抗がん剤（5FU）【46時間】
	抗がん剤の点滴開始時、開始後15分、抗がん剤終了時に、 体温、血圧、酸素飽和度を測定します
18:00	夕食 歯磨き
19:00	検温
21:30	消灯

医療スタッフの目標

- アレルギー症状や副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



- 冷たいものは常温になってからお召し上がりください
- 手すりやドアノブなど冷たいものに素手で触れないようにしましょう
- 点滴中はトイレなどの歩行時に注意しましょう
点滴台を支えにして歩くと転倒する可能性がありますので点滴台は支えにしないようにしましょう
- 針の入っているところや腕、肩、背中などが赤くなった、腫れている、痛みがあるときは、すぐにお知らせください
- 息が苦しい、体がかゆい、皮膚が赤くなるなど、気分が悪いときは我慢せずに、お知らせください
- ④の点滴開始後は、看護師が2時間ごとに針の入っているところや



接続部などの確認をいたします

- 21時頃、看護師が5FUの残量を確認します

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう



今日の目標

- 安全に抗がん剤治療を受けることができる
- 副作用症状出現時は、医療スタッフに知らせることができる

<時間>	<予定>
6:00	起床
7:30	朝食 洗面、歯磨き 検温 朝食後、吐き気止めを服用しましょう
10:00	検温
12:00	昼食 歯磨き
14:00	検温 体調に合わせて体を拭きます
18:00	夕食 歯磨き
19:00	検温
21:30	消灯

- 冷たいものは常温になってからお召し上がりください
- 金属の手すりやドアノブなど、冷たいものに素手で触れないようにしましょう
- 針の入っているところや腕、肩、背中などが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- 吐き気など気分が悪いときは我慢せずに、お知らせください
- 看護師が2時間ごとに針の入っているところや接続部などの確認をいたします
- 10時、21時頃、看護師が5FUの残量を確認します



フタをして水を2回流しましょう

MEMO 気になることや症状など書き留めておきましょう

- 医療スタッフの目標
- 副作用症状を早期発見し、症状緩和に努めます
 - 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



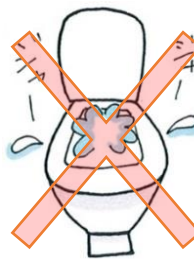


今日の目標

- 安全に抗がん剤治療を受けることができる
- 副作用症状出現時は、医療スタッフに知らせることができる

<時間>	<予定>
6:00	起床
7:30	朝食 洗面、歯磨き 検温 朝食後、吐き気止めを服用しましょう
10:00	検温
12:00	昼食 歯磨き
14:00	検温 点滴終了後、針を抜きます 針を抜いて2時間以上経過していれば、シャワー浴が行えます
18:00	夕食 歯磨き
19:00	検温
21:30	消灯

- 冷たいものは常温になってからお召し上がりください
- 金属の手すりやドアノブなど、冷たいものに素手で触れないようにしましょう
- 針の入っているところや腕、肩、背中などが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- 吐き気など気分が悪いときは我慢せずに、お知らせください
- 看護師が2時間ごとに針の入っているところや接続部などの確認をいたします
- 10時頃、看護師が5FUの残量を確認します
- 点滴が終了する前に模型を使って、針を抜く練習をしましょう



フタをして水を2回流しましょう

MEMO 気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- 副作用症状を早期発見し、症状緩和に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



薬液が入っているか確認する方法

風船の大きさで確認する方法

風船は、均等にしぼむとは限りません
毎回、違う形でしぼむ可能性があります

風船のしぼみ方の例



投与開始時



24時間後

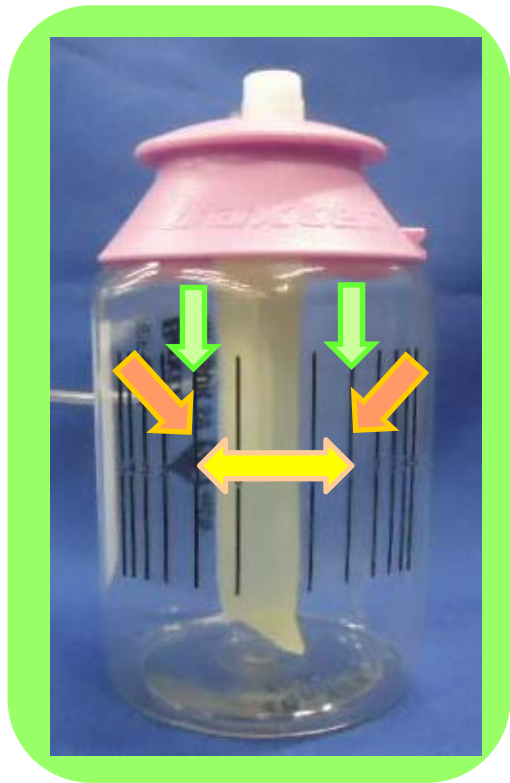


36時間後



終了時

風船のふくらみがなくなり『0（ゼロ）』の線と平行になれば、薬液注入完了です



★★確認の仕方★★

- ①バクスターインフューザーの「0」ライン（緑色矢印）を真っ直ぐ目の前にして風船をみます
- ②投与開始時よりも風船が「0」側に近づいていることを確認していきます
確認は12時間毎でも構いません
- ③投与開始後46・48時間経過していれば、両サイド「1」ライン（オレンジ色矢印）の内側、つまり黄色矢印の幅より小さくなっていれば、左右どちらかに風船のふくらみが偏っていても針を抜いて構いません

風船で減っているのを見るのがご心配な方は、自宅の料理用計量秤にて量が減っていることを確認する方法もあります

注意：計量秤が容器の重さ『約50』になっても風船が膨らんでいることがあります



今日の目標

- 副作用症状出現時は、医療スタッフに知らせることができる

<時間>	<予定>
6:30	起床
7:30	朝食 洗面、歯磨き
10:00	検温
12:00	昼食 歯磨き
14:00	検温 シャワー浴をしましょう
18:00	夕食 歯磨き
21:30	消灯

- 冷たいものは常温になってからお召し上がりください
- 退院までに通院治療室の見学に行きます
- 金属の手すりやドアノブなど、冷たいものに素手で触れないように注意しましょう



フタをして水を2回流しましょう

MEMO 気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標
副作用症状を早期発見し、症状緩和に努めます



抗がん剤投与 5日目～退院前日

月 日～ 月 日



今日の目標

- 副作用症状出現時は、医療スタッフに知らせることができる

<時間>

<予定>

6:30

起床

7:30

朝食
洗面、歯磨き

10:00

検温

12:00

昼食
歯磨き

シャワー浴をしましょう

18:00

夕食
歯磨き



21:30

消灯

- 冷たいものは常温になってからお召し上がりください
- 金属の手すりやドアノブなど、冷たいものに素手で触れないように注意しましょう
- 退院までに通院治療室の見学に行きます
- 退院日が決定したら、看護師より退院当日の流れと退院後の日常生活の注意点について説明があります

抗がん剤投与5日目までは、フタをして水を2回流しましょう

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- 副作用症状を早期発見し、症状緩和に努めます
- 退院の準備をすすめられるよう支援します



退院日 月 日



今日の目標
・退院できる

<時間>	<予定>
6:00	起床 検温
7:30	朝食
	退院時入院料金連絡票をお部屋までお持ちします 2階窓口でお支払終了後、病棟まで連絡票をお持ちください 次回外来予約票をお渡しします
	お預かりしているお薬、退院のお薬がある場合はお渡しします
10:00	退院 退院前にお忘れ物がないようご確認ください

次回外来受診日は

月 日 () 時の予定です

* 外来受診時に検査のある場合は、事前に医師から説明があります
(状況に応じて検査があります)

※ 通院治療室に行かれるときにはこのパンフレットをお持ちください

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標
・退院後の日常生活に不安がないよう支援します



がん化学療法の副作用症状について

●過敏症（アレルギー）

抗がん剤を投与したときに、抗がん剤に対して身体が異常な反応を示すことを過敏症といいます。

抗がん剤投与時の過敏反応は、免疫の働きから起こります。

免疫の働きによって起こる過敏反応は、1回目、2回目の抗がん剤投与時の点滴開始直後～投与中に起こることが多いと言われています。抗がん剤の種類によっては、数回の点滴後に突然アレルギー反応が起こることもあります。

アレルギーの症状は、手のひらや足の裏が痒くなる、蕁麻疹、口の中やのどの違和感やしびれ感、顔や体がカーッと熱くなる、吐き気、お腹の痛み、胸を押さえつけられるような圧迫感、くしゃみ、冷や汗などの症状が初期症状として現れます。

症状が現れたら、点滴の滴下をすぐに止めます。アレルギーの場合は、一般的に原因となった抗がん剤の再投与は行いません。しかし、症状が軽い場合には、医師の判断によって症状が落ち着くのをまってから点滴の速度をゆっくりにしたり、アレルギーを予防する薬を投与したりして治療を再開することがあります。



●インフュージョンリアクション

免疫の働きに関係なく、抗がん剤の点滴注射による反応から起こる過敏反応で、投与直後から24時間の間に起こると言われています。

症状は、寒気がして体が震える、発熱、頭痛、かゆみ、発疹などが現れます。重篤になると、アレルギーの重篤な症状と同じ症状がでて命にかかわることがあります。

重篤な症状ではない限り、点滴の速度をゆっくりにしたり、症状緩和の薬を使用して症状が落ち着けば治療を再開します。

予防方法（日常生活の注意点）

- アレルギー体質がある場合（食事を食べたり、薬を使用して蕁麻疹が出たことがある、喘息の既往がある、花粉症やアレルギー性鼻炎があるなど）は、担当医または看護師にあらかじめお知らせください。
- 抗がん剤の点滴を開始して、過敏症状がでたら早めに滴下を止めることが大切です。過敏症状を感じたら遠慮せずに、すぐに担当医または看護師にお知らせください。
- アレルギーやインフュージョンリアクションが起こりやすいことが分かっている抗がん剤には、あらかじめアレルギーを抑える薬を使用します。治療前の説明の時にお知らせします。アレルギーを抑える薬の中には、緑内障や前立腺肥大の病気があると使用できないものがあります。



●神経障害（末梢神経障害）

末梢神経障害は、投与する抗がん剤によって投与直後に起こるものと何回か投与を重ねるごとに出現し、徐々に悪化するものがあります。

▼末梢神経障害の症状

感覚神経のダメージ	「正座のときのようなジンジンする感じ」 「ピリピリと電気が走るような感じ」 「感覚が鈍くなる」 「砂利や砂の上を歩いているような感じ」 「パソコンのキーボードを押した感覚が 分かりにくい」 など
運動神経のダメージ	「手足の力が入らない」 「歩行や駆け足がうまくできない」 「椅子から立ち上がれない」 「階段が登れない」 「物をよく落とす」 など ※感覚神経のダメージがひどくなったときにも 運動障害の症状は起こることがあります。

治療方法

現在、末梢神経障害を完全に抑える薬はありません。

また、神経の回復は遅く、抗がん剤が終わってもすぐには症状が改善しないことが多いと言われています。そのため日常生活に影響がでるほどの症状が出た場合には、抗がん剤の量を減らしたり、休んだりすることがあります。症状を緩和する目的で、痛み止めを使用することがありますが、効果には個人差があります。

予防方法（日常生活の注意点）

- 末梢神経障害が起こると、感覚が鈍くなるため火傷や外傷に気づきにくくなります。怪我をしないように注意しましょう。また、しびれの強い部分は怪我をしていないか目で確認するようにしましょう。
- 履物は、つまかけタイプではなく、しっかりと履けるタイプの靴を選びましょう。ヒールは避けた方がよいでしょう。
- 個人差がありますが、マッサージやしびれの部位を温める、ボールを握る運動など血流をよくするようなケアをするとしびれが和らぐ方がいます。温める際には、低温やけどに注意しましょう。
- ボタンがかけにくい、パソコンのキーボードが打てない、銀行のATMの暗証番号がうまく感知しない、文字がうまく書けない、お箸が使いにくくなった、物を落とすやすくなった、など日常生活に支障が出てきたときには、担当医または看護師にお知らせください。

●吐き気・嘔吐

吐き気・嘔吐は、抗がん剤を開始してから数時間後から起きはじめ、3～4日間ほどで症状は落ちつくことが多いです。嘔吐によって、水分と胃液・十二指腸液などに含まれる電解質も体外に出てしまいます。

そのため、電解質や水分が多量に失われると脱力感・倦怠感・手足のしびれなどの電解質異常症状や、口の渇き・皮膚の乾燥・尿量の減少・体重の減少などの脱水症状が出てきます。

治療方法

病院で処方された吐き気を抑える薬は、決められた指示どおりに内服してください。また、吐き気が強い場合に飲んでいただくものもあります。

予防方法（日常生活の注意点）

- 無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べるとよいでしょう。
- においに敏感になっている場合には、花や香水などのにおいが強いものを避け、また室内の換気をよくして、リフレッシュすると良いでしょう。
- テレビを見たり、ゆっくりと腹式呼吸を行うことで吐き気が楽になることがあります。
- 料理では、特に揚げ物、煮物、煮魚や焼き魚などは避けることで、嘔気を軽減することもあります。
また、料理は冷やしたり、冷まして食べることでにおいが軽減し、食べやすくなることがあります。



●口内炎

痛み、出血、食事がしみる、口の中の乾燥、口の中がはれる、口の中が赤くなる、口が動かしにくい、食べ物が飲み込みにくい、味覚が変わる、会話しにくい、など。抗がん剤の投与後、およそ5日目から10日目ころに口内炎が発生しやすくなります。

治療方法

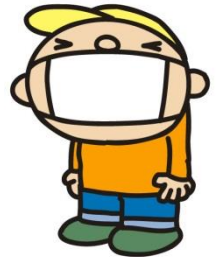
痛みが強い場合には、消毒作用や痛み止めの作用のあるうがい薬を使うこともあります。

予防方法（日常生活の注意点）

- 必要に応じてうがい薬でこまめにうがいをしたり、食後あるいは寝る前にうがいをし、歯磨きなどで口の中を清潔にするとよいでしょう。
- 料理は熱いものを避け、冷まして食べると炎症部位への刺激が少なくなります。塩分や酸味、香辛料の強いものは避けるとよいでしょう。
- やわらかい料理（お粥や、やわらかく煮込んだうどんなど）を多めにしたり、とろみをつけたり、裏ごしすると食べやすいです。

●骨髄毒性

抗がん剤の副作用による骨髄抑制は、薬剤および個人差により若干異なりますが、一般的に投与1～2週間後にピークになり、その後7～10日で回復します。



◎白血球（好中球）減少による症状～感染症状（発熱など）

白血球が減少すると免疫力が落ちて感染しやすくなります。感染予防のコツは外界と接する粘膜の部分（鼻、口、肛門、尿道、膣）や手を常に清潔に保つことです。

予防方法（日常生活の注意点）

- 普段からうがい、手洗いを励行し、入浴やシャワー浴で体を清潔にして、感染予防の習慣をつけましょう。
- 白血球減少のピーク時には、普段のうがいや手洗に加えて、外出を控え、マスクをつけ、生ものを避けるなどの注意をするとさらに細菌やウイルスを防御しやすくなります。

退院後の日常生活について

●食事

無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べるとよいでしょう
食事ごとに吐いてしまうようなときは、1～2食、食事は控えてみましょう
この場合も水分はできるだけとりましょう



●排泄

毎日排便があるようにしましょう
軽い運動や水分を多めにとりましょう

下痢のときは白湯やスポーツ飲料などをとりましょう
水分を控えると脱水症状を起こすことがあります

便秘気味の方は、緩下剤（便をゆるくする薬・押し出す薬）で排便コントロールをしましょう

退院までに医療スタッフと対処方法について相談しておきましょう

*退院後、便秘が続き排ガスがない、下痢や吐き気、腹痛がある場合はかかりつけ医、または四国がんセンターの医師の診察を受けるようにしましょう

●発熱

38.0℃以上の熱がでた場合は、医師の指示どおりに抗生剤や解熱剤を服用しましょう
服用しても熱が続く場合は、がん相談支援センターにご相談ください

●活動

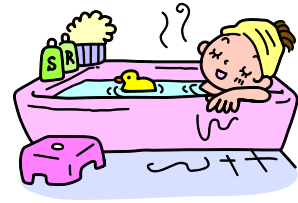
無理をしない程度で体を動かしましょう
活動の内容や範囲に制限はありません
白血球が下がっているときは、なるべく人混みは避けましょう
外出時は、**マスクを着用**し、帰宅時にうがい、手洗いをしましょう

運動や趣味の活動を行ううえで迷うことがあれば、医療スタッフにご相談ください



●入浴

外来治療後、抗がん剤を投与中は入浴を避けましょう
下半身のみシャワー浴を行ってもかまいません
抗がん剤の投与が終了し、針を抜いた後、
2時間以上たってから入浴しましょう



●仕事

重労働はしばらく避けましょう
これから先、安心して働き続けるためには、体の状態に合わせた休み方や働き方が
必要になることもあります
病院では、患者さんの「働きたい！」をサポートしています
私たちと一緒に考えていきましょう



【相談窓口】

がん相談支援センター相談員

・医療ソーシャルワーカー、看護師

<出張相談>

・ハローワーク松山就職支援ナビゲーター

・両立支援促進員（社会保険労務士）

ご相談は、がん相談支援センターへお問い合わせください

●お薬

お薬の処方がある方は、医師の指示どおりに服用してください
他の病院のお薬を服用する場合は、医師に相談してください



●その他

治療中は自宅でも家庭用血圧計を用いて毎日血圧を確認し、記録しましょう
寒冷刺激は、しびれなどの神経障害を誘発したり、悪化させる原因となります

- ・冷たいものに触れたり飲んだりしないようにしましょう
- ・洗面や手洗いなどはできるだけ温水を使用しましょう
- ・炊事や洗濯の際は、厚めのゴム手袋を着用しましょう
- ・皮膚が濡れたらすぐに水分を拭きとるようにしてください
- ・エアコンなどの冷気に体をさらさないように気をつけましょう

また床など、ひんやりと感じるところに直接座らないようにしましょう

外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ

通院治療の流れ

①受付



Bブロック

②採血
中央処置室



☆採血時のお願い☆
採血場所や注意することは退院前に確認しておきましょう
点滴予定の腕とは反対の腕で採血してもらってください



採血結果が出るまで、
約30分～1時間かかります

③診察受付
A、B、C、S各ブロック

Aブロック

Bブロック

Cブロック

Sブロック

呼吸器科
消化器科
緩和ケア
精神腫瘍科
感染症腫瘍内科
骨軟部腫瘍・整形外科

泌尿器科
血液腫瘍内科
原発不明がん診療科

④診察

乳腺科
婦人科
形成・再建皮膚腫瘍外科
頭頸科・甲状腺腫瘍科

消化器科
糖尿内科
循環器科
皮膚科
眼科
リンパ浮腫

治療決定

Sブロック

⑤治療
通院治療室

外来では、
看護師が点滴の針を刺し、
確認後に抗がん剤を開始します

治療終了

検査の説明を受ける方は、予約センターへ

他の診療科で診察のある方は、各診療科受付へ

予約センターは
B受付の隣です



⑥会計

処方箋もすべてファイルに入れたまま総合受付 **6番窓口** に提出してください。

***お薬の処方がある方へ**

会計終了後に処方箋をお渡しします。4日以内にお薬をお受け取りください。

通院治療室での過ごし方

- 外来で初めて治療を受ける方は、説明と確認を行いますので、少しお時間を頂きます。
- ベッドか椅子を選択できますが、混雑時にはご希望に添えないこともあります。
- テレビは無料でご利用できます。また、ラジオや音楽プレイヤー等の持ち込みも可能です。但し、ご利用される場合にはイヤホンをご用意ください。
- 携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- 通院治療室内での飲食は可能ですが、においの強いものはご遠慮ください。飲食される方は、各自でご準備ください。
- トイレは通院治療室内のトイレをご使用ください。男女兼用ですが、3か所あります。
- ご家族の待機場所は、「暖だん」や「図書コーナー」などがありますのでご利用ください。必要時には、付き添うこともできます。
- 副作用や日常生活で困っていることなど、相談したいことがあれば、いつでもスタッフに声をおかけください。





- 38.0℃以上の熱が続くとき
- 抗がん剤の投与が終了する前に針が抜けてしまったとき
- 下痢が続くとき
- 食事がとれないほど、ひどく体調が悪いとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は、
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8：30～17：15
四国がんセンター がん相談支援センター
（直通番号） 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
（代表番号） 089-999-1111

* 外来受診日や検査予約日の変更については、
予約センターにご連絡ください

【平日】 8：30～17：15
（直通番号） 089-999-1112



mFOLFOX6療法を受けられる方へ